

平成 30 年度第 1 回高知県産業振興計画フォローアップ委員会林業部会 議事概要

日時：平成 30 年 9 月 10 日（月） 13：30～16：00

場所：高知市丸ノ内二丁目 1-10 高知城ホール 2 階中会議室

出席：委員 9 名中、9 名が出席

議事：(1) 第 3 期産業振興計画 ver. 3 <林業分野>の進捗状況等について

①各産業分野で掲げた 4 年後の目標達成に向けた確認

②産業成長戦略の平成 30 年度上半期の進捗状況等

(2) その他

議事 (1) について、県から説明し、意見交換を行った。(主な意見は下記のとおり)

(2) については特になし。

議事については、すべて了承された。

(1) 第 3 期産業振興計画 ver. 3 <林業分野>の進捗状況等について

(國友委員)

森林経営管理制度の内容と、森林経営管理制度と森の工場をリンクさせることについて、詳しく聞かせてほしい。

(坂本林業環境政策課長)

森林経営管理制度とは、来年 4 月から新たに森林経営管理法が施行され、今まで所有者不明などで放置されてきた森林を市町村が主体になって調査し、今後整備を行っていくもの。それに向けて、県が整備している林地台帳を使い、所有者情報や施業履歴などのシステムの改修も行いながら、市町村の調査を容易にして、集約化につなげていきたいと考えている。

(小川委員)

C L T をこれから普及させていくためにも、C L T の建築コスト、R C や鉄骨の建築物とのコスト比較など基礎的データを蓄積して分析しておく必要がある。これまで県内で建てた建築物などの情報を整理して、市町村が建てたいと思ったときに支援できるようなことはできないか。丸太の価格が値下がりしている中で、高性能林業機械を導入して丸太の生産コストを下げるとともに、流通・販売コストを下げたい取り組みをお願いしたい。

(小原木材産業振興課長)

C L Tについては、今まで建築してきた建物について、専門家の方にコスト削減への工夫や施工性の分析を依頼しており、今後、研修会やフォーラムなどを通じて説明をしていきたい。公共建築物の木造化については、市町村の中でも温度差があるため、コストや木の良さなどについて持っているデータを使い、業界団体とも連携して市町村にP Rする機会を作っていきたい。

(岩原木材増産推進課長)

県では、素材生産業者と製材業者との協定取引を推進するため、協定を結んだ場合、皆伐での作業道や機械導入の支援を行っている。また、スマート林業などI C Tを使った流通の効率化に向けた取り組みについて、勉強会を開催するなどの取り組みを行っていききたい。

(後藤委員)

原木生産量の目標については、目標の到達に向けて取り組んでいるが、労働生産性については、長期的に見ると、あるところで限界がくるかもしれない。その見通しを立てるためにも、皆伐や間伐、車両系や架線系の作業パターン別の基礎的なデータを整えて、計画に反映してもらいたい。

(岩原木材増産推進課長)

今後、作業パターンごとに整理していくことも検討していきたい。

(政岡委員)

以前と比べて木材価格が下がってきている中で、皆伐した山に森林所有者が再造林を行うという流れがどの程度できているのか。

(岩原木材増産推進課長)

昨年度の実績としては、皆伐が約6 0 0 h aに対して再造林は約2 0 0 h aで、再造林率は3 6 %となっている。森林所有者にとっては再造林などの費用が大きな負担となっており、市町村と連携して森林所有者の負担を軽減する支援を行っていく。

(田所林業振興・環境部長)

将来に亘って持続可能な林業経営ができるようにしていかなければならない。現在、条件の良いところから皆伐が行われており、今後は奥地化が進んでいくことから、再造林にはしっかりと取り組んでいく。

(國友委員)

以前の部会で再造林率の目標は50%と聞いたが、現在36%ということで、資源の循環という面では問題がある。県として、高知の山をどのような方向性で理想の山にしていくのか、ランドデザインを考えてほしい。

(岩原木材増産推進課長)

将来、持続的な林業経営ができる山については、森林所有者に対して補助制度の説明もしながら再造林の働きかけを行っていく。

(宮崎委員)

木質バイオマスボイラー導入の拡大について、温水利用の多い施設に対して取り組みを行っていくということだが、ボイラーはペレットと薪のどちらを勧めていくのか。また、木質バイオマスのメリットを事業者の説明していくとあるがそれは何か。

(小原木材産業振興課長)

熱利用については、県外ではペレットが主流となっているが、こちらとしては相手側の要望や、使用する燃料によるメリット・デメリットを伝えることによって進めていきたいと考えている。木質バイオマスのメリットについては、重油と比べてペレットの価格が安定していること、CO₂の削減、環境に優しいといったことなどが挙げられる。

(西村委員)

TOSAZAIセンターの取り組みについて、県外事業者への訪問93社とあるが、訪問した際に得られた情報を県内加工事業者との意見交換の場でフィードバックしているか。ここ数年の県外の県産製材品に対する評価はどうか。

(谷脇木材産業振興課企画監)

県外事業者を訪問した際に得られた情報については、県内の事業者にもフィードバックを行っている。県産製材品に対する県外事業者からの評価については、嶺北地域などからのJAS製品の出荷や、西部地域における役物の出荷などに対して一定の評価を得ている。市場からは乾燥等品質の確かな製品が求められており、県内の生産体制を整えていく。

(以上)